

1. 評価結果概要表

作成日 平成20年 2月22日

【評価実施概要】

事業所番号	3270101391		
法人名	有)メテ‘イックス古沢		
事業所名	グループホーム野の花		
所在地	松江市 大庭町 1311-1 (電話)0852-20-2822		
評価機関名	NPOしまね介護ネット		
所在地	松江市白潟本町 43番地		
訪問調査日	平成20年2月5日	評価確定日	平成20年3月4日

【情報提供票より】(H 19年12月28日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18 年 3 月 30 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	16 人	常勤15人, 非常勤1人, 常勤換算15.75	

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建て	1~2階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	4万~4.5万 円	その他の経費(月額)	20,368 円	
敷 金	無			
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(20万 円) 無	有りの場合 償却の有無	有 / 5年	
食材料費	朝食	540 円	昼食	540 円
	夕食	540 円	おやつ	円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (H 19年12月28日現在)

利用者人数	18名	男性	5名	女性	13名
要介護1	4	要介護2	7		
要介護3	7	要介護4	0		
要介護5	0	要支援2	0		
年齢	平均	78歳	59歳	最高	94歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	後藤クリニック・細田クリニック・古沢整形外科・大町歯科・特養「長命園」
---------	-------------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設二年が経とうとし、職員利用者が互いに馴染みとなってきている。ホームとしての理念が管理者、職員に浸透し、地域にも発信され交流も増えてきている。利用者は趣味を楽しみ自分のペースで過ごされ、100円ショップに行くのを楽しみにしている利用者もいる。「医療・福祉サービス提供事業者連絡会」の一員として、地域内の介護事業所とのネットワーク作りを積極的に行っている。

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4) 介護計画は一ヶ月毎の見直しが行われている。一ユニット毎職員が利用者と一緒に食事をしている。各利用者の食量や水分摂取量が毎日記載され、栄養士のアドバイスも受けている。各種マニュアルも整備されており、昨年度の評価の課題にそれぞれ取り組み改善されている。
	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 職員全員に自己評価票を配り、個々で取り組みそれをまとめた。記入することで改めた気づいて点が多々あり、事業運営やケアの見直しの参考としている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 開所以降、二ヶ月に一回定期的開催され、ホームの様子や行事予定を報告し、警察や消防署からも話をしてもらっている。地域の人が参加することで地域との協力体制作りにつながっている。利用者、家族も参加し、意見を事業所の運営に反映している。
	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) ホームの玄関に苦情ポストを設置している。また文書で相談窓口を明記している。家族の面会時に話を聞いたことなど「声ノート」に記載し、会議などで検討している。
重点項目③	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目④	ホームだよりの「地域版」を回覧するなど、地域のホームへの理解を深めてもらう取り組みに力を入れている。「地域コミュニケーション室」を作り、地域の方に利用してもらっている。

2. 評価結果（詳細）

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取 組 み を 期 待 し たい 項 目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人の、ホームを作る際の基本理念が「地域に密着した運営の援助」であり、それがホームの理念となって、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を新人研修に入れ、ミーティング、会議でも理念を共有しながら日々のケアに取り組んでいる。ホーム内に「理念」を掲示している。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	ボランティアの方や幼稚園児との交流などもあり、職員、利用者も地域の行事に参加している。ホーム内に「地域コミュニケーション室」があり、地域の方とのコミュニケーションや会議の場として利用している。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	運営者、管理者、職員全員が自己評価、外部評価の意義を理解し、全員で取り組んだ。各種書類、マニュアルの整備など、前回の評価を基に全体にわたり改善に取り組んでいる。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議ではホームの現状、行事予定、外部評価結果などを報告し、意見を出してもらっている。出席者からの意見を参考に、この課題の改善に取り組んできた。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	日々のケアを行う中で運営上疑問に思う点、解決上意見を求めたい場合など、市に相談したり、関係作りができています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月の「たより」にホームの様子や、職員の異動も記載している。加えて一人ひとりの利用者の様子を担当職員が直筆で記入し、時折写真も同封している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に苦情受付箱を設置している。「声ノート」を作り、家族の面会時の話などを記録し、運営に反映させている。運営推進会議で家族の意見を聞くなどもしているが、苦情が出にくい現状がある。	○	家族の意見を引き出すために、家族アンケートの検討など行っていただきたい。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	退職は今まで一名である。利用者には担当職員を早期に決め、配慮している。		


外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新入職員研修は採用三ヶ月以内、継続研修は年一回行われている。法人内外の研修にも適宜参加し、報告内容を全職員で共有している。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の他の事業所と数回交換研修を行っている。会議などの場で意見を反映させている。「医療・福祉サービス提供事業者連絡協議会」の一員として地域の中でネットワーク作りを行っている。	○	「医療・福祉サービス提供事業者連絡協議会」の一員としてさらに地域との連携を強化していただきたい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に居宅、あるいは病院、特老などを訪問し、本人、家族と面接している。入居前にホームに見学に来てもらったりしている。利用者が馴染むまで2、3日家族と一緒に泊まってもらったケースもある。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日々の生活の中で、人生の先輩である利用者から料理方法、伝統、習慣などを教えてもらい、時には人生相談に乗ってもらっている。共に支えあう関係作りができている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報収集で生活歴などを把握し、入居後は「声ノート」に家族の要望や、利用者の「声」を記録している。「引継ぎノート」に職員が日々気づいたことを記録し、思いや意向を検討している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護支援専門員からの情報提供を受け、利用者本人と家族からの情報、職員の意見も聞きながら計画を作成している。さらに利用者との面接をし、利用者本位の計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	長期計画、短期計画を立て、一ヶ月に一度の見直しを行っている。見直しの際には関係者、職員の意見を取り入れている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家庭でトラブルがあり、警察、介護支援専門員から相談を受け、緊急入居していただいたケースがある。ホーム内に家族が泊まれる場所がある。かかりつけ医への受診支援、外出支援も行っている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への定期的な受診や、往診が行われている。「健康観察チェック表」が記入され、関係者に情報提供されている。受診後の情報を記録に残している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に「重度化した場合の対応について」という文書でホームの対応の内容が説明されている。かかりつけ医の判断、指導を仰ぎながら、ホームで可能な限り対応する姿勢がある。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	文書、マニュアルに明文化されており、新入職員研修の中にも組み込まれている。職員一人ひとりが日々のケアでプライバシー保護を念頭においている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の希望に沿って個々の生活リズムやペースを大切に、今ある能力を活かしながら、ゆったり支援している。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食事」が利用者の満足となるよう、毎回手作りし、食材や味付けにも気を配っている。利用者と共に準備、片づけを行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は毎日、利用者の希望に沿って夜間も入れるようになっている。入浴を嫌がる利用者には、タイミング、声かけの工夫を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	利用者の生活歴からできることをことを考え、野菜作りや生け花を行ってもらっている。ホームの生活の中でハーモニカや大正琴や歌、キーボードを披露してもらったり、将棋などでも楽しんでもらっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	外出を嫌がる利用者もいるが声かけを工夫して、散歩に誘っている。買い物を楽しみにしている利用者が多く、100円ショップに出かけたり、利用者の希望に沿うよう支援している。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	今までトラブルはない。施錠は夜8時、開錠は朝5時から6時となっており、施錠しないホームの姿勢を維持している。地域、警察の協力が得られてきている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り 組みを 期待し たい項	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年2回消防署の指導の下、防火訓練を実施している。災害訓練は防火訓練に準じている。「医療・福祉サービス提供事業者連絡協議会」を通じて、災害時の協力体制も検討されている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日のチェック表に利用者一人ひとりの食事摂取量、水分摂取量が記載されている。利用者の好みも把握している。利用者の状態に応じ、きざみ、とろみなどの対応がなされ、栄養士の指導も受けている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は家庭的で、たたみスペースに冬季は炬燵があり、利用者は食後などそこで過ごす方が多い。食堂もゆったりとしており、ソファなど使いやすく配置され、部屋にこもる方は少ない。空調にも配慮している。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット、箆笥などは馴染みの物を入れてもらっている。畳にしたり、壁の一部を変えるなど、本人、家族の希望が取り入れられるようになっている。		

※  は、重点項目。

※ WAMNETに公開する際には、本様式のほか、事業所から提出された自己評価票（様式1）を添付すること。